



郷土芸能「ボシドラ」を舞う

甲佐小児童が運動会で披露



▲甲佐小5・6年生による「ボシドラ」

●運動会で郷土芸能の舞を披露

5月25日(土)甲佐小学校(清村勢津子校長)で開催された運動会で、同小の5・6年生68人が、本坂谷の郷土芸能「ボシドラ」(花棒踊り)を披露しました。

●「ボシドラ」の歴史

「ボシドラ」は、日本神話に出てくる「天の岩戸」の前で舞われた神楽舞から作り出された雨ごい踊りで、250年以上前に、八代郡種山村(現八代市東陽町)から本坂谷に伝わりました。

以後、舞は地域住民によって守られてきましたが、踊り手の高齢化などの理由で、昭和61年から宮内小の児童が受け継ぎ、地区の運動会や文化



▲ドラ(大太鼓)の上で演舞する児童

祭などの行事で披露してきました。

●甲佐小に伝統を継承

甲佐小では、平成21年4月に統合した宮内小から舞を受け継ぎ、5年生が毎年運動会で踊っていました。今年度から6年生と合同で披露することになりました。

練習では、本坂谷区から指導者を招き「雨ごい踊りだから、空を見ろこと」や「腰をしっかりと落とすこと」などの指導を受け、児童は本番に臨みました。

運動会では、1人がドラ(大太鼓)の上に乗し、全員が紅白の房が付いた「花棒」と呼ばれる棒を両手に持って、大きな掛け声を上げながら元気に踊りました。